

令和7年度 学校評価報告書（実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価（3月17日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>① 学ぶ楽しさを知り、広い教養と豊かな情操を養い、学力を伸ばす。</p> <p>② コミュニケーション能力を育成する。</p>	<p>①指導と評価の一体化の視点から組織的な授業改善に取り組み、主体的に学ぶ姿勢を育成する。</p> <p>②グローバル社会で活躍する人材を育成するために語学力・コミュニケーション能力を高める。</p> <p>③学校行事等を計画的に運営し、達成感を得ることができるよう指導する。</p>	<p>①定期的に授業見学期間を設け、振り返りを行い、年間を通して授業改善に取り組む。</p> <p>①ICTを利活用し、家庭学習習慣を確立する。</p> <p>②4技能を伸ばす英語教育を推進する。</p> <p>③プレゼンテーションなどを通して、生徒が学習内容を相互にやり取りし、コミュニケーション能力を高める。</p> <p>④学校行事等の活性化</p>	<p>①指導と評価の一体化の視点で授業改善を図ることができたか。</p> <p>①生徒による授業評価</p> <p>①授業見学の回数</p> <p>①スタディサプリ等の学習教材とアンケート機能の活用状況</p> <p>②授業での取組における英語や日本語での言語活動を通して、コミュニケーション能力を高めることができたか。</p> <p>③生徒が自主的に学校行事等を運営し、達成感を得ることができたか。</p>	<p>①授業見学期間や職員会議を利用するなど、年間を通じて授業改善に向けた取組を実施することができた。また、公開授業では指導と評価の一体化をテーマにした研究授業によって各教科で組織的に授業力の向上を図ることができた。</p> <p>②授業での言語活動や国際理解交流会などを通して、コミュニケーション能力の育成に努めることができた。</p> <p>③生徒が自主的に、体育祭や文化祭などの学校行事等を運営し、達成感を得ることができた。</p>	<p>①指導と評価の一体化をより一層進めていくために、不断の授業改善の取組を続けていく必要がある。</p> <p>②引き続き、授業や特別活動の中での言語活動の取組を通して、コミュニケーション能力を高めていく。</p> <p>③引き続き、生徒が自主的に学校行事等を運営して達成感を得ることができるよう、指導していく。</p>	<p>授業見学・公開授業を通じた組織的な授業改善が継続的に実施され、指導と評価の一体化も着実に進んでいる。生徒による授業評価の結果も安定しており、学校行事を通じた主体性の育成も成果が見られた。また、国際理解交流会などによるコミュニケーション能力育成にも取組が広がっている。前年度比較が可能な数値や対応例があると思うので、別資料で提示されると、どのように改善されたか理解を得やすい。</p>	<p>①授業改善研修や授業見学の機会を活かし、指導と評価の一体化の理解は進んでいる。また、生徒による授業評価の数値は昨年度と概ね同様であり、引き続き、不断の授業改善に努めていく。</p> <p>②コミュニケーション能力向上に向けた取組として授業での言語活動だけでなく、国際理解交流会を行い、生徒の振り返りは肯定的なものが多かった。</p> <p>③生徒が、学校行事等を自主的に運営した。達成感を十分に得ることができたか。</p>	<p>①年間を通して、授業見学、研修会等の取組を指導と評価の一体化の視点で振り返りやフィードバックを行う。</p> <p>②国際理解交流会などの取組を通して、国際理解やコミュニケーション能力向上を図る。</p> <p>③学校行事等を運営した生徒が、達成感を十分に得ることができるよう、細かな指導をしていく。</p>
2	生徒指導・支援	<p>① すべての生徒が安心・安全に過ごすことができる環境を提供する。</p> <p>② 他者との関わりを通して、望ましい人間関係を構築できる生徒を育成する。</p>	<p>①生徒が安全・安心して過ごすために、規範意識の向上を図る。</p> <p>①教育相談等を積極的に活用できる体制を整える。</p> <p>②部活動を活性化する。</p>	<p>①サポートドックを活用し、生徒一人ひとりに寄り添う。また、外部機関との連携も含めた教育相談体制を充実させる。</p> <p>①規範意識向上についてサポートドックの中に独自の質問を加え、アンケートを実施する。</p> <p>②部活動の一層の活性化</p>	<p>①教育相談体制が整い、SC、SSW、外部機関と連携ができたか。</p> <p>①学校生活、社会生活において、モラル・マナーなど規範意識が向上したか。</p> <p>②部活動の加入率が増加したか。</p>	<p>①教育相談体制を見直した。今まで以上に生徒が相談しやすく、教員間でも共有しやすくなるような工夫をした。</p> <p>①サポートドックの中に規範意識についての質問項目を入れて、生徒の意識調査をした。</p> <p>②部活動加入率が、61.3%から70.0%へ増加した。</p>	<p>①教員間での共有がよりスムーズにいくように、中心となる組織を明確化していくことを検討中である。</p> <p>①規範意識の向上については、特に通学中のマナーについては今後も引き続き指導していく。</p> <p>②部活動加入率が、さらに増加するよう、新入生への勧誘方法を工夫していく。</p>	<p>教育相談体制について相談しやすい環境づくりが進んだ。組織形態について全教員間で共有可能な視覚化された資料があると保護者も安心できる。規範意識についてはアンケートと実態に乖離があるとの指摘もあり、特に登下校時のマナー改善に継続的な指導が必要である。部活動の加入率増加は学校の活性化にも繋がるので今後も期待している。</p>	<p>①教育相談体制を見直し、年度内に教員間で周知することができたか。</p> <p>①規範意識の向上についてのアンケートは実施したが、アンケートの回答と実情に差がある。</p> <p>②部活動加入率が、さらに増加できないか。</p>	<p>①教育相談コーディネーター、各学年の教育相談係が効果的に機能していけるような体制づくり。</p> <p>①特に登下校中のマナーについて生徒たちに意識付けをさせたい。</p> <p>②部活動加入率が、さらに増加するよう、新入生への勧誘方法を工夫していく。</p>
3	進路指導・支援	<p>① 将来を見据え、自らの生き方を考え、その実現に向けて計画を立て、努力を積み重ねる生徒を育成する。</p>	<p>①自己啓発を促す教育活動を推進する。</p> <p>①進路指導に外部模試を活用する。</p>	<p>①将来を見据えた進路を考えられるような進路ガイダンスや探究活動を行う。</p> <p>①スタディサプリ、模試を活用して学力向上や進路指導に役立てる。</p>	<p>①進路ガイダンスや探究活動により、将来について考えることができたか。</p> <p>①スタディサプリ、外部模試を進路活動に役立てることができたか。</p>	<p>①職業ガイダンスや進路ガイダンスを行い、進路を考える機会を作った。</p> <p>①授業の課題や課題テスト後の弱点強化にスタディサプリを活用した。利用率は全国平均より高い。</p>	<p>①進路決定に時間がかかる生徒に向けて進路を考える機会を増やす。</p> <p>①教材のモチベーションアップの改良点などを積極的に利用し、活用を広げていく。</p>	<p>生徒が自ら将来を考える機会は十分に提供されている。スタディサプリの活用も学習支援として効果的であるが、利用状況の前年度比較があると理解を得やすい。英語領域の進路支援体制見直しは急務といえる。「授業での英語や国際理解のコミュニケーション能力の育成向上の達成（教育課程・学習指導）」と連携</p>	<p>①職業ガイダンスや進路ガイダンスを行い、進路を考える機会を作った。</p> <p>①スタディサプリを活用した。</p>	<p>①職業人のOBの講演会など、進路を考える機会を増やす。</p> <p>①さらにスタディサプリの活用を進める。</p>

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価(3月17日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		② 国際社会で活躍できる生徒を育成し、進路実現につなげる。	②英語検定準2級取得率を向上させる。 ②総合的な探究の時間の年間計画を精査し改善する。	②英検準2級取得率向上への組織的な指導体制を確立する。 ②生徒自身が主体的に課題を設定し、探究し、成果や研究結果を発表する計画を立案し、実行する	②英検準2級の取得率を令和6年度(43%)より向上できたか。 ②探究活動の充実を進め、その成果を発表会などで発表することができたか。	②3年生で2級の取得者が25人、準1級が2人になった一方で準2級の1次試の合格者は前年を下回ってしまった。(59%→39%)。 ②1年生は、時間をかけて丁寧に「問いづくりトレーニング」を行い、2年生は個人の課題で課題研究を行い、3年生は「世界で通用するコミュニケーション力」をテーマに校内外の活動を通じて探究活動を行った。	②英語の教員と協力しながら、来年度の英検対策の指導体制を見直す。 ②「問いづくりトレーニング」で養った力を課題研究に進めるような計画を立てる。	した改善策を期待する。探究活動については1～3年を見通した体系化が始まっており、今後は一貫した育成目標の設定と評価基準の整理が期待される。	②英検の必要性を説明し、準2級受験の指導を行ったが、合格率は昨年度を下回る見込みである。 ②各学年で試行錯誤しながら探究活動を進めてきたが、3年間を通じた活動を計画する必要がある。	②英語の教員と協力しながら、来年度の英検対策の指導体制を見直す。 ②各学年で目標とする「身につけさせたい力」を定めて、3年間で一貫した計画を立てて進めていく。
4	地域等との協働	① PTA・同窓会・地域等との交流及び協働を深め、地域に開かれた学校づくりを推進する。 ② 広報活動を充実させ、広く本校の教育活動を県民に周知する。	①外部と連携する教育活動の一層の充実 ①学校運営協議会の活用 ②学校HPの速やかな更新と充実 ②学校説明会の内容の充実	①学校運営協議会において教育活動へのご意見をいただきながら学校運営の改善に活かしていく。 ②学校HPの速やかな更新により、生徒の活躍や学校の取組について積極的に発信し、本校の魅力と特色についてアピールする。 ②全公立展や公私合同説明会、学校説明会等で生徒が積極的に、本校の魅力を発信する。	①保護者・近隣の小中学校、地域との交流及び協働事業を実施し、連携を強化できたか。 ①学校運営協議会でいただいたご意見を学校運営の改善に活かすことができたか。 ②学校HPや各種説明会において、本校の魅力や特色を広く内外に発信することができたか。 ②生徒の活動、学校の取組のHP更新回数	①PTAと制服のリユース販売を実施し、70名程度の生徒が購入した。また、地域との連携については今年も部活動単位で協力を図ることが多くあった。 ①学校運営協議会で頂いた意見を企画会議等で整理し、職員、当該グループと共有し対応している。 ②全公立展や公私合同説明会、校内の学校説明会などで在校生が説明や発表、部活動紹介を行った。 ②学校HPの更新回数は、12月末現在で24回(昨年は15回)	①部活動単位からもう少し幅を広げ、委員会等でも地域との連携を図っていききたい。 ①次年度も地域に開かれた学校づくりを目指し、学校運営協議会の活用を継続していく。 ②学校HPの更新回数を増やすことや内容を充実させ、本校の魅力を発信する。 ②説明会内容について、参加者アンケートや職員・生徒の意見を参考に検討する。	PTAや地域との協働が活発で、制服リユース販売の取組は評価できる。学校説明会での生徒主体の発信や、HPの更新回数的大幅増加により、広報活動も改善が進んでいる。部活動の地域貢献活動は生徒の意識改革も必要になる継続課題と捉えている。保護者や地域住民、中学生に「麻生高校の良さ」を周知する最前線であり、他校と比較されるポジションでもあるので今後の活動も期待する。	①行事や部活動等を通して、様々な場面でPTA・同窓会・地域等との交流や協働を深めることができた。小学校・中学校が隣接する特徴を生かしていきたい。 ②学校説明会やHP等で本校の魅力をより発信することができた。学校HP更新回数は、昨年15回、今年度27回(1月末時点)	①今後も継続して協働する場面や交流する場を設け、地域に開かれた学校づくりを目指していく。 ②今後も学校HPの更新回数を増やすとともに内容の充実を図る。
5	学校管理 学校運営	① 教職員が高い使命感と倫理観を持ち、事故・不祥事のない職場づくりを推進する。 ② 教職員が生徒との教育活動に専念できる環境づくりを目指すと共に、働き方改革を進める。	①事故・不祥事のない職場づくり ②業務の効率化、統廃合を検討する。 ②職員の業務を軽減する。 ②会議の短時間化を図る。	①不祥事防止研修会の実施 ②企画会議を中心に、組織改革と業務内容の改善を行う。 ②業務アシスタントを有効に活用する。 ②会議のペーパーレス化を目指す。	①不祥事防止研修会を毎月実施できたか。 ②組織改革、業務の整理が行われたか。 ②管理職・職員の業務を軽減するため、業務アシスタントへ依頼する業務の見直しが見直しができたか。 ②ペーパーレス化が進んだか。	①不祥事防止研修会を6月～12月の間でテーマを変えて6回実施した。今後も実施していく。 ②次年度実施予定のオフィス改善プロジェクトを進める中で、業務の効率化を図った。 ②ネットバンキングの導入やChatによる職員間の連絡、電話の夜間モード設定等、職員の業務軽減が進んでいる。 ②職員会議はほぼペーパーレス化ができた。授業内でもICTを活用したペーパーレス化が進んでいる。	①県内で不祥事があった場合は職員全体で情報共有をし、倫理観と同僚性の向上を図る。 ②職員の業務軽減については今後もあらゆる場面で見直していく必要がある。	事故不祥事がなかったことを評価する。未然に防止する意識改革行動は引き続き期待したい。働き方改革への取組は、組織運営の効率化に前向きな姿勢が見られる。教職員の業務負担軽減は、まずは監督者及び同僚が一人ひとりの教職員を理解している姿勢を持ち続けられることを期待する。	①事故・不祥事はなかった。 ②電子黒板の導入や保護者との連絡ツールの変更などにより、業務の効率化や負担軽減ができた部分もあった。今後もさらに進め、長時間勤務を是正する必要がある。	①これからも高い使命感・倫理観を持ち、同僚性の高い職場づくりを目指す。 ②校務へのICTの活用等をさらに進めていく。